

標津線が廃線となってから20年

標津線の始発駅 標茶



標茶～根室標津間を結ぶ重要な路線として活躍した標津線が廃線となつてから20年を超えました。標津線があつたころの標茶駅は、機関区や保線区、鉄道官舎が立ち並び、鉄

道の大きな拠点となっていました。現在、標津線の痕跡は町内にあまり残されていませんが、標津線を走っていた蒸気機関車が、「冬の湿原号」として釧網線を走っています。標津線のさまざまな写真や資料と共に、今一度標津線を振り返ってみませんか？各地区を移動する巡回展示です。

開催会場 (各会場のロビーまたは廊下にて展示しています)



- 開発センター  
1月12日(火)～25日(月)
- 磯分内酪農センター  
1月26日(火)～2月1日(月)
- 虹別酪農センター  
2月2日(火)～8日(月)

- 中御卒別小学校 2月9日(火)～15日(月)
- 沼幌小学校 2月16日(火)～22日(月)
- 久著呂中央小中学校 2月23日(火)～3月1日(月)

※3月以降は、『広報しべちゃ』2月号でお知らせします。

**大川のほとり**  
 郷土館だより (第44号) -  
 ☎487-2332  
 開館時間  
 午前9時30分～午後4時30分

郷土館より 上  
 一筆啓  
 今年は、郷土館に多くの寄贈品が寄せられ、300点を超える資料が新しく仲間入りしました。多くの方々のご好意により、郷土館の資料は増えていきます。今度ともよろしくお祈いします。(坪)

キタサンシヨウウオ

町の天然記念物「キタサンシヨウウオ」

サンシヨウウオを見たことがありますか？本町には、エゾサンシヨウウオとキタサンシヨウウオの2種類がいます。今回はキタサンシヨウウオのお話です。

①キタサンシヨウウオの分布

キタサンシヨウウオは体長が11～13cmの小さなサンシヨウウオです。日本では釧路湿原と北方領土の国後島のみに分布しています。一方、海外ではロシア、カザフスタン、モンゴル、中国、北朝鮮と世界で最も広く分布しているサンシヨウウオでもあります。

②キタサンシヨウウオの生活

ゴールデンウィークの初めになると、キタサンシヨウウオは釧路湿原の池やシカ道にできた水たまりにやってきて、らせん状の卵のう(卵がたくさんつまった袋)を2本、ヨシなどに産みつけます。産まれたばかりの卵のうは青白く光るので「湿原のサファイア」と呼ばれているそうです。この卵のうの中には100～300個の卵が入っています。

卵はおよそ1カ月で孵化し、幼生(子ども)はしばらく水中の生活をします。そして夏になると陸に上がって生活を始めます。冬は湿原にできた丘やヤチボウズの中など冬でも凍らない、比較的乾燥した場所で冬眠します。

③キタサンシヨウウオの発見

キタサンシヨウウオが日本で最初に見つかったのは1954年、発見者はなんと釧路市の小学生。日本にはキタサンシヨウウオはいないという当時の学説(八田線\*)をひっくりかえす大発見だったそうです。本町では1977年に飯島一雄氏に



キタサンシヨウウオ (卵のう)



# ニツ山遺跡第3地点展

異文化の記憶 7000年前のクマ彫像

今から約7,000年前に突如現れ、そして消えていった、縄文文化とは異なる文化を持った“石刃鎌文化”の人々。彼らの残した遺跡が、町内で発見されています。その代表的な遺跡である「ニツ山遺跡第3地点（五十石）」で発見された、貴重な遺物を展示いたします。

- 期 間 1月30日(土)まで
- 場 所 郷土館1階  
ミニ企画展コーナー



## しべちゃ vol.25 生き物ファイル エゾモモンガ

標茶で見られる、  
四季折々の旬な  
生き物を紹介します。



■名前／エゾモモンガ  
*Pteromys volans orii*

■よくみつける場所／通年（ただし夜行性）

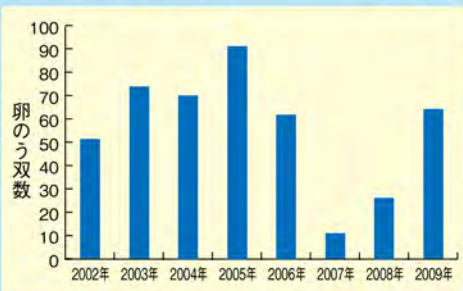
■撮影地／山林

■特徴／夜になると空を飛ぶので、バンドリ（晩鳥）とも呼ばれています。夜行性なのでなかなか見る機会がないのですが、鳥の巣箱を掃除しようとしたら中から出てきた、という話も聞きます。木の根元に米粒のようなフンがかたまって落ちていたら、モモンガが近くを利用している証拠です。



キタサンシヨウウオ（成体）

⑤標茶のキタサンシヨウウオ  
塘路におけるキタサンシヨウウオの卵のう双数を紹介します。調査内容が必ずしも同じではないので、単純に比較することは難しいのですが、それでも年によって卵のう双数に変動があります。このような変動は、釧路湿原の他の地区でも起きているそうです。数年の調査結果では、卵のう双数が少なくみえても長い時間をかけてみるとたくさんさんのキタサンシヨウウオが利用している産卵地である可能性があります。



### ④世界から見たキタサンシヨウウオ

最近の研究では、釧路湿原にすむキタサンシヨウウオは今から160万～190万年前も前から他の地域のキタサンシヨウオとは違う独自の分化をしてきた（＝他の地域とは異なった遺伝情報を持っている）貴重なものであることがわかってきたそうです。

よって塘路で発見され、1992年に町の天然記念物になっています。

※八田線：宗谷海峡を境に、北と南では、すんでいる生き物が違うという考え方。八田三郎氏がとらえた。

### ⑥キタサンシヨウウオを守るためには

このようにキタサンシヨウウオは、成長段階や季節によって活動する場所が変化し、また年によって活動に変動がある生き物です。キタサンシヨウウオを守っていくためには、産卵地から越冬地を広い範囲で、そして長い時間をかけて見守っていくことが大切です。